

日本学術振興会日中韓フォーサイト事業
事後評価（平成26（2014）年度採択課題）書面評価結果

日本側拠点機関名 東北大学材料科学高等研究所（特任教授・西浦 廉政）

研究交流課題名 階層的ヘテロ流れのモデリング、シミュレーションとその材料科学への応用

評価結果（総合的評価）

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ | A 想定以上の成果をあげており、当初の目標は達成された。 |
| ☒ | B 想定どおりの成果をあげており、当初の目標は達成された。 |
| ☐ | C ある程度成果があがり、当初の目標もある程度達成された。 |
| ☐ | D 成果が十分にあるとは言えず、当初の目標はほとんど達成されなかった。 |

所見

本事業では、東北大が中心となって、日中韓をつなぐ共同研究のテーマを総合的に研究するための拠点機関の構築・交流を目指し、想定通りの成果をあげて達成している。日本側拠点の滞在型研究施設「東北大学知のフォーラム」が有効に活用され、様々な研究活動が行なわれている。学術的側面としては、材料科学における4つの方向性での成果が得られた。論文業績や学会発表数は研究テーマの方向性により、偏ってしまったように見えるが、業績としては非常に多く、学会発表も積極的に取り組んだ。一方で、共著論文で中国側研究者の参加が見受けられないのは残念であるが、今後は本事業をきっかけとして、東北大学を拠点とした数学と材料科学の融合研究が韓国、中国も交えて発展するのではないかと期待される。

若手研究者の育成について、チュートリアルが適切に実施された上で、数多くの若手研究者向けの企画が実行され、若手研究者に有益な事業が実施されたことは評価できる。それが、今後若手研究者どうしの研究ネットワークに発展することを期待するが、現時点ではまだ研究ネットワークが構築されたとは言えない。ただ、2020年には中国で研究集会が行われるとのことであり、今後は中国韓国側からも若手育成の研究集会が行われることが期待できる。